

GOKURAKUJI DAYORI
極楽寺だより
2026(令和8)年 4月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

春の永代経法要の「案内」

慈しみの光あふれる春となりました。

生命の息吹を感じるとき、お浄土の人となられた方々が懐かし
くしのばれます。阿弥陀さまのおすくいのご恩、お育てのご恩を
味わい、仏祖のご恩を感謝して、春の永代経法要を次の通りお勤
めします。お誘いあわせて、お参り下さい。

四月十五日（水）

昼一時半

夜七時半

四月十六日（木）

昼一時半

御講師

福岡市本願寺派布教使

森哲人師

花まつり



四月八日は、お釈迦さまのご誕生を祝う花まつり。花御堂を飾り、お釈迦さまの誕生時のお姿に甘茶をかけてお祝いします。花御堂は、生誕の地「ルンビニーの花園」をあらわし、甘茶は「ご誕生の際に、甘露の雨が降った」という言い伝えによるものです。極楽寺では、春の法要の二日間、本堂に花御堂を飾ります。ご自由に甘茶をかけ、お参りください。

おしエノカケラ

OSHIE NO KAKERA



シリーズ「癌と共に」 第六回 「受け止められるから」も受け容れられる

【現状報告】

告知を受けて、一年が経ちました。「ステー

ジ4です」「もう、手術はできません」と言われ

た時には、「一年後どうなっているやら」と思い

ましたが、何とか元気に過ごせています。がんの大きさが一年

前とほぼ変わっていないのは、薬が効いているからなのでしょう

う。とはいえ、予断を許さない現状に変わりはありません。

ただ、この一年間の濃密な時間をふり返ると、がんと共に歩

む人生もまんざらでもないのかも…などと思っています。そん

なことを言うと、心配してくださる方々から怒られるかもしれ

ませんね。でもそれだけ、「生きる」ということに対してぼんや

りと過ごしてきた日々が、告知によって見直されたのは、私

にとつてとても大切な経験になっています。

【人間の厳粛な事実】



さて昨年、薬の副作用で髪の毛が抜け、丸刈りにした際に「前

住職とそっくりだ」という声を、数多くいただきました。二人

とも耳が大きいのは一目瞭然ですが、頭の形がこんなに似てい

るとは。私も、正直驚いています。

その前住職が、お浄土に往生させていただいて丸三年が過ぎ

ました。有難いことに、最後まで家で看取ることができたので

すが、まさに仏法で言われるところの「老病死」を、身をもつ

て示してくれたように思います。

あんなに元気だった人が、動けなくなり、立てなくなり、

寝込み、意識がなくなっていく。下の世話もしてもらわなくてはならなくなる。そんな姿を通して、「いいか、お前もいずれは、こうなるんだ。必ず、老い、病み、死んでいかなければならない。これが、人間の厳粛な事実なんだぞ」と教えられている気がしたのです。

そのことを友人の住職に話したところ、「そうそう。同じようなことを、こ



の前先輩と話していたんだ。オレたちも、いずれは下の世話をしてもらう時が来る。しかも、相手は若い女性の看護師さんである可能性が高い。お前は、若い異性にお尻を拭いてもらう覚悟はあるか？せめて今から、その練習をしておこう」と言われ、確かにそうだと思います。いざ、その場面が来た際、屈辱的な思いになるのか、それとも感謝の思いになれるのかでは、全く違いますからね。

そして実は今回、その現実を突きつけられたのです。あれは、最初の抗がん剤治療で入院した時のこと。薬の副作用で、

便秘に酷く悩まされたのです。私は、これまで便秘を経験したことがなかったので甘く見ていましたが、あれは本当にツラく、苦しいものでした。

もう、ここにいます。その存在は確かに感じられる。けれども、動かない。どんなにいきんでも、全く出ないのです。下剤を飲んでも効き目はありません。焦りと共にその存在は次第に大きくなり、鉛の玉が入っているようにも感じられ、それでも微動だにしない。これが精神的にも肉体的にも苦しいのです。

追い込まれる中で、ベテランの看護師さん（とは言っても、私よりも確実に年下の方ですが）に訴えると、「では、流腸しましょうね。はい、横になって。横向きに寝て、お尻出してください」と言われます。戸惑いを感じながらも、とにかく苦しいので流れに身をまかせると、あれよあれよという間に流腸は入られていきました。ところが、残念なことに効果はありません。そこで看護師さんが発せられた言葉は、私の想像を大きく超えたものだったのです。

「じゃあ、もうほじくり出すしかないですね」と。

ほ、ほじくり出す？もしかして、指を入れて？驚く私に追い打ちをかけるように、ベテラン看護師さんのこんな言葉が聞こえてきました。

「ちよつと誰か、若い子来て！私の指は太いから、細い指の人、誰か来て！」

冷や汗と共に、いよいよ来るべき時が来たと思いました。想定してきた場面が、とうとうやって来たのです。

「じゃあ、私がやります」と若い女性の看護師さんが現れ、手袋を付け、躊躇ためらいもなくお尻の穴に指突っ込み、ほじくり出す作業が始まりました。

【その時、私は】

ではその時、私はどう思ったのか。

意外いがいや意外、「ああ…これでオレは、一回り大きな人間になれた」と思えたのです。 ↓

お尻の穴に指を突っ込んで、ウンコをほじくり出すなんて、

される方も嫌ですが、する方はもつと嫌ですよ。でも、それをしてくださる人がいるわけです。しかも若い女性が、躊躇ためらいもなくしてくださる。これはもう、感謝しかないでしょう。

「仕事だから」「慣れているから」と言われる方もあるでしょうが、そんな仕事を引き受けてくださる方がいること自体、有難く尊いことだと思えます。

そして同時に、人間の厳肅げんしゆくな事実じじつに触れたような気がしたのです。偉えらそうに、立派なふりして

いても、結局はそんな身の事実じじつを抱かかえながらしか、私たちは生きていけない。でも私には、ここまで

してくださる方がいる。私の事実じじつ

を素直に受け容れたときに、広々とした心持ちになり、自分が一回り大きくなれたような気がしたのです。

それを偉えらそうに、立派なふりをするからこそ、身の事実じじつを突きつけられた時に受け容れられなくなるのでは。そして、自 ↓



分で自分を惨めに蔑んでしてしまうのではないですか。

それは、これまでそんな立場の人を馬鹿にしてきたからでもあるのでしょうか。今まで馬鹿にしてきた立場の人に、自分がある。これはツライことです。でも、ツライと思わせているのは、自分なのです。そんな思いに捉われていると、私のためにはたらいてくださる方の存在をも蔑み、見失わせてしまうことにもなりかねません。これは傲慢な生き方ではないか。そんなことを考えさせられたのです。

【受け容れられた理由とは】

ではなぜ私が、身の事実を素直に受け容れることができたのか。それは、仏法を通して「老病死」の現実を知らされ、覚悟を決め、日々練習してきたからだけではありません。何よりも、阿弥陀さまとの出遇いによるものだ実感しています。

阿弥陀さまは、どんな私をも選ばず、嫌わず、見捨てないと誓われた仏さまです。だから、下の世話をしてもらおうくらい、

屁でもない。お尻の穴に指を突っ込まれるくらいで、惨めになるなんて、逆に傲慢極まりない。そういう身の事実を抱えていることを承知の上で、それでもこの私を、かけがえのない尊い存在として、受け止めてくださる。等身大の自分が、丸ごと認められていく。そんな阿弥陀さまとの出遇いがあるからこそ、私も身の事実を受け容れられたのだと思います。

気力、体力、経済力等々の条件が備わった自分しか認められない。つまり、条件付きの自分しか受け容れられないのであれば、条件から外れた自分は、惨めな存在でしかありません。そうすると、ダメな自分を受け容れられなくなる。そして、自分よりダメな人を探して、「アイツよりはマシだ」と見下すことでしか、自分を慰められなくなる。それは欺瞞に満ちた、虚しく寂しい生き方です。

真宗大谷派の僧侶・金子大栄先生は、「落ちて着くから、落ちて着くのですよ」と言われたとか。まさに、「落ちたら終わり」と思っていた先には、受け止めてくださる世界が広がっていたのです。このような世界に出遇えたからこそ、地に足を着けた、

落ち着いた足取りで人生を歩むことができると、身を通して知らされています。

【心はいつも下座にあり】

念仏詩人と呼ばれた榎本栄一えのもとえいいちさんに、『下座—自分に—』という詩があります。

「こころはいつも下座げざにあり

ここはひろびろ

ここのなら なにが流れてきても

そつとお受けできそう」



榎本さんは、「下座とは一番地べたすわに坐すわつておる気持ち」だと

言われています。高いところで、自分の力以上のものを持たさ

れたら腰こしを抜ぬかす。でも、地べたでどつかと坐すわっていたら、自

分の体重以上のものがきても、そしてどんな自分であっても、

安心して「はい」とお受けできる。少し高いところにいたら、い

くらかでも下へ落ちるけれども、下へ落ちるところがないと

ころが、自分の安息の場所で一番いいところではないかと。(NHK教育テレビ「こころの時代」平成四年三月二十九日放送)

そして、その下座とはまさに、等身大の私を丸ごと受け止め、尊んでくださる阿弥陀さまの世界なのだと思えるのです。

やはり人は、どんな自分をも受け止められる世界と出で遇あうからこそ、どんな自分でも受け容いれることができるのでしよう。

そして、どんな自分をも受け容いれることができたとき、思いも

よらない豊かな景色けしきが広がってくるのです。同時に、自分がど

れだけ狭せまくて小さなもの見方に捉とらわれていたのかも、知ら

されるのです。

このような世界と出遇でっているかどうかで、人生の質しつは明ら

かに変わる。そのことを、先を歩む人の後ろ姿みちびに導みちかれ、阿弥

陀さまの呼び声であるお念仏に支えら

れながら、実感する毎日を送まっています。

■





ポイント注目を！



本堂横の玄関前に、石灯籠いしどうろうが置いてあります。以前、この辺りすぎごけを杉苔でいっぱいになりたいとチャレンジしたのですが、日当たりが良い場所で、上手くいかず断念だんねん。そこで今回は協力して下さるご門徒の方と砂利を敷いて整備せいびし、「ようこそ 極楽寺へ」の看板せっちを設置いたしました。ご門徒の方から提供された桜の板に、住職ちようこくが彫刻した力作です（台座は、桑くわの木で作っていただきました）。今回の彫刻は、親鸞聖人のイラスト（しかもカラー！）に挑戦しています。お寺に来られた際には、ぜひご注目ください。



それに伴い、親鸞聖人像の周辺も、砂利を敷いて整備しました。ただ、殺風景さつぷうけいになってしまったので、何かないかと探したところ、前住職が保管していた、本堂屋根瓦（江戸時代作）がありました。オブジェのように飾かざっているので、こちらもご注目ください。



本堂横の玄関に、注目を！

月々の言葉

Monthly Words



4月の言葉

今月の言葉は、『大無量寿経』の「田あれば田に憂へ、宅あれば

宅に憂ふ。／田なければ、また憂へて田あらんことを欲ふ。

宅なければまた憂へて宅あらんことを欲ふ」という一節からの

ものです。田や家がない者は、欲しいと思ひ悩む。ところが田

や家を持つ者は、持つことでまた悩みが生まれる。ひとつが得

られると他のひとつが欠ける。それが私たちの生きる姿なのだ

と。

私たちは、欲しいものが手に入れば満たされると思い、便利

さや快適さ、物質的な豊かさを求めてきました。そうして昔と

比べ、はるかに恵まれた環境で生活しています。それは、か

つての王侯貴族よりも贅沢なものだと、指摘

する人もいるほどです。考えてみれば、私の

子どもの頃（約五十年前）と比べても、驚く

ようなシステムやテクノロジーに囲まれてい

ます。

ところが、心が満たされているかと問われ

るとどうでしょう。生きづらさや息苦しさを

感じながら生きる人が多い現代社会です。「昔

は良かった」と、不便な時代を懐かしむ人さ

えいます。おまけに、進化したテクノロジーが起こすトラブルは、

昔では考えられないほどの大きな影響力で、私たちに襲い掛か

ってきます。

まさに『大無量寿経』に説かれた姿、そのものではないですか。

「人間の欲望は、そんなものでは満たされないよ」と、二千年以

上も昔から示されているのにも関わらず、私たちはその声に耳

を貸すこともなく、間違った方向へと進んできたのではないで

しょうか。

お風呂やシャワーはありません
空調設備もなければ
コンビニなんてとんでもない
娯楽も少ない時代です



※ とはいえ、「ない人の苦しみ」は「ある人の苦しみ」より

も深刻だということを、忘れてはなりません。そして、

手に入れることで解決する苦しみは、確実にあります。

但しそれは、「状況的な苦しみ」のこと。もちろん、とて

も大切なことで軽視しているわけではありませんが、こ

こで語られるのは人間の「本質的な苦しみ」であり、そ

れは「あれば解決する」という短絡的なものではないと

いう指摘なのです。

俳優の長澤まさみさんが出演されている、ビールのCMがあ

ります。お店で仲間たちと語り合う長澤さんに、店員さんが冷

えたビールを運んでくるところから始まります。

「来ましたっ！」。美味しそうに飲み干す長澤さん。思わず、

呟きます。「このキンキンが、家でも飲めたらなーっ！」。そ

こに「そう唸る長澤まさみに、教えたい」というナレーション

ンが入り、家でもキンキンのビールが飲める専用タンブラー

(保温保冷機能がついている飲物容器)が紹介されるというも

のです。

かつての王侯貴族でも体験できないほどの贅沢が、家でも味

わえる。なんて凄い時代なのでしょう！ところが、このCMに

は別バージョンがあり、これがなかなか考えさせられるのです。

長澤さんの家に集まり、鍋を囲ん

でいる女性たち。「おいしそー！」と

いう声があがります。「いいや、まだ

それじゃ、うまさ半分なのよ」と語

る長澤さん。「確かにアツアツだけで

も美味しいよね。でも、キンキンを

知ってしまったら、私にはそうは思えない。アツアツときたら

キンキン。それはもう、煩惱。いや、本能！」。

キンキンのビールが、どれほどの喜びかを伝えようとするC

Mです。しかし同時に、キンキンの快楽を知ること、アツア

ツだけでは満足できなくなる姿をも描いています。つまり、新

しい快楽を知ること、これまでの喜びが色褪せていく。この

CMは、皮肉にもそんな一面を伝えているのです。



考えてみれば、便利さを知ること、私たちは不便さに耐えられなくなっているのではないのでしょうか。効率的な世の中になるほど、待つことができなくなる。快適さを手に入れることで、ちよつとした不快が許せなくなり、大らかさや寛容さを失っている。これまで何とも思わなかったことにイライラし、ストレスばかりが増える。それが私たちの本能であり、まさに煩惱に苦しめられる状況に外なりません。

「近代日本最大の仏教学者」とも評される鈴木大拙博士は、「わがまま放題にするという、人はいかにも自由だと思ふけれども、その実は、何か他のものにあやつられてあつちに動き、こつちに動きしているのであつて、はなはだ自由ならぬ人と言うてもよいと思います」（『東洋の心』）とされています。

私たちは様々な形で欲望を煽られ、自由ならぬ状況にいないではないでしょうか。「みんな、持っている」「流行っている」「一流ブランドだから」と、気づけばあやつられるように、欲しがり、追い求めるようになっていっているのでは。しかしそれが手に入

っても、また次の欲望が煽られ、持っているものが色褪せていく。その繰り返しでは、不自由で、満たされない生き方にしかありません。

仏法は、そんな私たちの姿を教えてください。仏さまのはたきなのです。仏さまからの呼び声を聞き、立ち止まる。自分が欲しがっているものは、本当に私を満たすものなのか。手に入れることで、かえって苦しみが増すのではないかと、自分を点検する。そんな時間を持つている生き方と、持たない生き方では、大きな違いが出てくることでしょう。

私たちは、欲望から逃れることはできません。その上、様々なアプローチで、欲望が煽られる時代に生きています。だからこそ、立ち止まり、自分を点検する時間は、「できるけれども、止めておこう」という慎みを生み、持っているものの有難さや尊さを味わうきっかけにもなるはず。↗



極楽寺だよりを 送riませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたち、有縁の方々へ。お寺にお申し出ください。直接郵送いたします。ご遠慮なく！

近頃は、いろんな情報を気軽に手に入れることができる時代です。ところが、あふれた情報にふり回されてもいます。特に、不安をあおる宗教情報は危険です。また、仏事に関することについても、都会では気軽に相談するところがありません。お寺を身近に感じ、気軽に相談してもらうためにも、「極楽寺だより」が役に立つのでは…と思っています。



私たちは、二千年以上も前から呼びかけられているのです。
その声に耳を傾け、立ち止まってみませんか。 ■

物でお布施

家庭で眠っている物を、周りの人のために、活かしませんか。下記の物があれば、お寺までお持ちください。

書き損じはがき・未使用切手・商品券

未使用テレフォンカード・ビール券など金券

CD・DVD・ゲームソフト・ゲーム機器



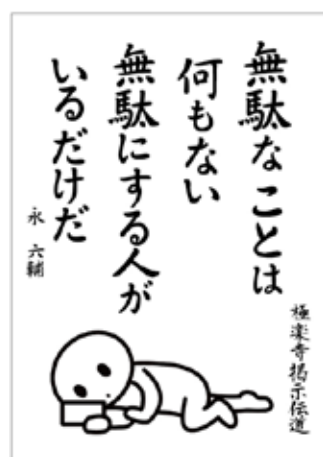
プルトップも、
引き続き集めています！

納骨堂新築計画進行中です

極楽寺の納骨堂新築計画が進んでいます。これからの維持管理を考えると、お墓よりも納骨堂の方が負担は確実に少ないと言えます。ご門徒以外の方でも大丈夫です。遠慮なく、お寺までご相談ください。

古い仏具 使わないお線香

お寺へお持ちください 本堂に回収箱を設置してあります。



5月の言葉

皆さんは、でこぼこ道を歩いておられますか？近頃は、ほとんどの道が舗装され、平坦なものになりました。おかげで快適になり、早く移動できるようになりました。

ただ、でこぼこ道を歩くことで、得られる効果もあるのだそうです。滑りやすい場所や転びそうな場所では、足をいろんな方向に動かすため、自然と日頃使わない筋肉を使うことになる。自然と体幹もしつかりし、バランスが良くなる。しかも脳に刺激を与え、頭がスッキリするのだとか。

やはり、身体のいろんな部分に刺激を与えることは、大切なですね。ならば、便利さや快適さに偏り、不便や不快を無駄なものとして切り捨ててしまうことで、生まれる歪みもあるので、

しよう。そしてそれは、人生においても同様です。失敗や挫折、痛みや悲しみを通してこそ、得られる気づきや学びがある。様々な体験によって育てられ、それが豊かさや深みを生むのだと思います。

ところでここだけの話なのですが、実は私、坊守ととても仲が良いのです。元々、夫婦仲は悪くはなかったのですが、次男の病気を始め、様々なでこぼこ道を共に歩いてきたことで、より深いものになりました。おまけに今は、私の病気もありますし。ある方が、「苦労は力に、悩みは知恵に、悲しみは優しさになります」と言われていましたが、本当にその通りだと実感します。苦労を通すからこそ、歩む力が育てられる。悩みを通して、新たな気づきや学びが生まれてくる。悲しみを経験することで、つらい立場の人の気持ちかわかり、思いやる優しさが育まれる。そんな



な体験を共に過ごすことで、関係は深まっていく。でこぼこ道を歩むからこそ、人生はより豊かなものになると実感しています。

ちなみに、親鸞聖人の妻である恵信尼さまは、聖人のことを観音菩薩の化身だと仰がれていたと、お手紙『恵信尼文書』に遺されています。そして親鸞聖人もまた、恵信尼さまを観音菩薩の化身と仰がれていたのではないかと思われます。こんな夫婦関係、なかなかありませんよね。仲が良いと自称する私たちでも、ここまで尊敬し合う関係かと言われると、さすがに…。それは親鸞聖人の苦悩の歩みが、悲しみの深さが、そして求める道の尊さが、恵信尼さまにそう感じさせたのではないかと、私は思うのです。これまでの仏教の枠組みを大きく見直し、すべてのいのちが等しく救われていく世界を求められた歩み。「いしかはらつづて（石ころ、瓦礫）」『唯信鈔文意』のように、あつても無きに等しい者として扱われた人々と、共に生きた道のり。それはでこぼこ道どころか、険しく困難なものでした。時には泥にまみれ、苦悩し挫折しながらも、歩み続けられたそゝ

の尊さが、恵信尼さまには観音菩薩のように感じられたのでしよう。

そして親鸞聖人にとつても、その苦難の道のりを共にし、支えてくださった恵信尼さまが、観音菩薩のように感じられた。やはり、苦難をくぐり抜けた関係は、より深く強いものとなるのです。

それは、夫婦関係に限りません。ツライ時、落ち込んだ時に、寄り添ってくれる人は、やはり特別な存在です。

いや、本当に大切な人とは、失敗や挫折、

痛みや悲しみを抱えた時にこそ、明らかになるでしょう。アリストテレスの名言、「不幸のときにこそ、真の友が明らかになる」『ニコマコス倫理学』そのままに。ならば、苦難もまた、人生において大切な時間だと言えます。

※ もう一つ付け加えると、親鸞聖人は、一番ツライ私、苦しむ私、弱った私が救われる道を求められたのです。それが阿弥陀さまの世界、お念仏の道でした。↪



光から一番遠いところに自分の身を置いて、それでも阿弥陀さまの救いの光は至り届いているという実感が、「この道ならば、誰もが共に救われる」という確信へとつながっているのです。

以前、高速道路のパーキングエリアで、恐ろしい光景を目の当たりにしました。それは、トイレの個室に入ろうとした時のこと。異様な臭いがしたかと思うと、目の前には流されないままのアレとトイレットペーパーの残骸がありました。思わず後ずさりし、いくつか離れた違う個室に入ろうとすると、何とまたその個室にも、同様のものが。あまりのショッキングな光景に、流すことさえできませんでした。何とか、離れた別の個室に入れて当初の目的は果たせましたが、あの光景は、しばらく頭から離れませんでした。

どうして、こんなことが起こるのか。近頃のトイレは、立ち上がると自動で流れる機能がついているものが多く、その便利さに慣れると、「流す」という行為を忘れてしまうのでしょうか。↓

いやその行為への意志そのものが、衰えてしまうのかもしれない。快適で便利な生活が、他者に不快な思い（それも極めて不快な！）をさせて、それに気づくこともない人間を育てていく。これは本当に、本当に恐ろしいことだと思いました。

昔に比べて私たちの生活は、便利で快適になっています。そして、コスパ（安く）タイプ（早く）を最優先にすべきものと考える人も増え、苦難やでこぼこ道を無駄なものとして切り捨てる意識も強くなりました。



でも、そうして人生は豊かになりましたか。深く味わう力が衰えてはいませんか。他者の姿は見えていますか。共に生きる人さえも、効率や快適さを基準に選別しているのではないですか。亡き人を思う葬儀や法事も、支え合う人間関係も、遠回りする経験も、すべて無駄だと切り捨てたその先に、何かあるのでしょうか。それはもしかして、自分の人生そのものを、無駄なものとして扱う生き方なのかもしれません。↑

快適で便利でスピード感ばかりを求める環境が、どんな人間を育てるのか。足を止めて、考える必要があります。そんな人界があることも。

でこぼこ道を歩むからこそ、育てられる豊かさを、私たち夫婦はお薦めしているのです。 ■



極楽寺
ホームページ

極楽寺.comで
検索

又はQRコードから



若院通信

じゃくいんつうしん



色々な方と話をするなかで、「若いねえ」とよく言われます。私は今年で二十八歳になるのですが、自分の中では二十八歳は半分おじさんくらいのイメージでした。実際にその年齢になってみて、自分が若いというイメージはないのですが、昔自分でイメージしていた二十八歳と比べるとまだまだ大人とは言えない自分がいました。

その考えに至ってやっと、自分が「若い」のではなく「未熟」なのだ気づきました。

昔イメージしていた大人にはなれていませんが、自らの未熟に気付ける程度には成長できているのかもしれません。 ■



いよいよ、今年もカープの闘いが始まります。正直、あまり期待はできそうにありませんが、ぼやきながら、愚痴りながらも、精一杯応援しようと思っています。新井監督、頑張れ！



世話人退任について

長年世話人・納骨堂役員を勤めてくださいました豊原・坪野実人さん（11年11ヶ月）が退任されました。坪野さん、本当に有難うございました。後任については、現在調整中です。

葬儀の連絡は、^{けっこう}真夜中でも結構です！

親しい方が亡くなられたら、皆さん^{どうよう}動揺されます。中には、不安な夜を過ごされる方も…。朝まで待たれる必要はありません。とりあえず、心を落ち着かせるためにも、お寺へご連絡ください。どんな時間でも結構です。どうぞ、ご遠慮なく。



□今のところ、変わりなく元気に過ごしています。今回の薬は、「いつ、どんな形で^{ふくきよう}副作用が出るかわからない」と、お医者さんや看護師さんからビビらされているのですが、もちろん出ないケースもあるわけで、意識しすぎても仕方ありません。出た時に^{たいおう}対応するしかないと腹をくくり、そろそろ色々な活動に^{ふつき}復帰していくつもりです。ただ、^{じゃくいん}若院も頑張ってくれていますので、彼の^{けいけん}経験を^{うば}奪わないように、ぼちぼちやろうと思っています。□前回、このコーナーでお知らせした「水道代が8万円かかった件」ですが、原因がわかりました。やはり、^{かねつ}鐘撞き堂横のトイレだったようです。記事を読まれた方が、「そういえば、年末に納骨堂にお参りした時、トイレの水が流れている音がしていました。お参りし終わった後も、まだ流れていたの、止めておきましたよ」と話してくださったのです。何と有り難いことでしょうか！もしも止められてなかったらと思うと、ゾッとします。本当に感謝、感謝です。「そんなことくらいで」と言われるかもしれませんが、「そんなことくらい」の行為が、私にはとても^{うれ}嬉しかったのです。もちろんそれは、^{きんせんめん}金銭面だけではなくて。□考えてみれば、小さな^{こうい}行為や^{こころば}心配りが大きな喜びを生み出すということは、私たちの生活を見回すと、結構あるのでは。いや私たちの社会は、そんな^{きさ}細やかな思いの積み重ねで、出来上がっているのでしょうか。世界では、自分の立場だけを考え、ルールや^{しんらい}信頼を^{こわ}壊し、戦争まで引き起こす^{ぼっこ}指導者が^あ跋扈しています。彼らの力の前では、私たちなどちっぽけな存在かもしれません。しかし、私たちの人生に^{ぬく}温もりと^{てざわ}手触りを与えてくれるのは、彼らの持つ大きな力ではなく、小さな行為や心配りなのではないか。そんなことを、しみじみと感じている今日この頃です。（住職）

次回法座の予定

夏法座 6月10(水) 11日(木)

講師 芳村隆法師 (福岡太宰府市 光蓮寺住職)